

自動車リサイクルシステムの将来像について

現在の自動車リサイクルシステムは、いかなる経済状況にも左右されることなく適正な取組が確保されることを目的に構築されたものである。昨秋以降の鉄スクラップ市況の大幅な下落にもかかわらず、その目的どおり大きな支障もなく安定的に運用されてきたのは、中心的役割を担った自動車製造業者等と関係事業者との連携により適正な処理を進めてきた本システムの妥当性の証左といえる。

自動車リサイクルシステムが将来にわたって強靱なものであるためには、拡大生産者責任に基づき自動車製造業者による3品目のリサイクル、製造時の環境配慮設計、リサイクル技術等の開発や実証等を引き続き進展させること、自動車リサイクル法に基づく責務者も含め広く関係各者が協力していくこと等により、各取組の相乗効果も相まって社会システムとして自律的に機能することが重要である。このような観点から、以下の点についての取組を進めていく必要があるのではないかと考える。

1. 環境配慮設計等について

自動車の環境配慮設計については、各製造業者等において、これまでも様々な取組が講じられてきた。特にリサイクルへの配慮に関しては、解体しやすい構造、リサイクルが容易な材料の利用、樹脂材料の種類削減等が進められてきたところである。

今後、このような環境配慮設計が講じられた自動車が増加するとともに、関係主体における情報の共有が進めば、リサイクルの効率化が進み、新たなリサイクル手法の開発・普及、ユーザーの自動車の選好の変化につながることも期待される。引き続き環境配慮設計の取組が進み、こうした取組がリサイクルの高度化として結実するよう注視するとともに、それが実現する将来の段階においては、自動車リサイクル制度がこれらの取組と調和し、円滑に対応が進むよう、改めて検証すべきではないかと考える。

2. 次世代自動車を含む新規技術への対応について

ハイブリッド車、電気自動車等の次世代自動車等に導入される技術の進歩にはめざましいものがあり、今後さらに進展していくことが予想される。次世代自動車については、バッテリー、モーター等の従来の自動車と素材や構造が異なる部品が用いられており、そのリサイクルを実施するため、現在、一部の製造業者等において自主的に回収も行われているところである。

今後製造、販売される自動車に関しては使用済自動車となるまでに時間があるため、新たな技術が導入された自動車・部品に関しては、当面自動車製造業者や当該部品製造業者等において必要に応じて回収・リサイクル体制の整備が図られるべきではないかと考える。